

全般季節予報支援資料 1か月予報

2026年6月4日

予報期間：6月6日～7月5日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北日本の気温は1週目は低く、2週目は高く、気温の変動が大きいです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

東・西日本太平洋側では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	30:50:20	30:30:40	40:30:30	
	太平洋側		20:40:40	40:30:30	
東日本	日本海側	20:30:50	30:30:40	40:30:30	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
西日本	日本海側	10:40:50	30:30:40	40:30:30	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
沖縄・奄美		10:30:60	20:30:50	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	70:20:10	20:30:50	30:30:40
東日本	30:50:20	20:40:40	10:30:60
西日本	20:30:50	20:40:40	10:30:60
沖縄・奄美	20:30:50	10:40:50	10:30:60

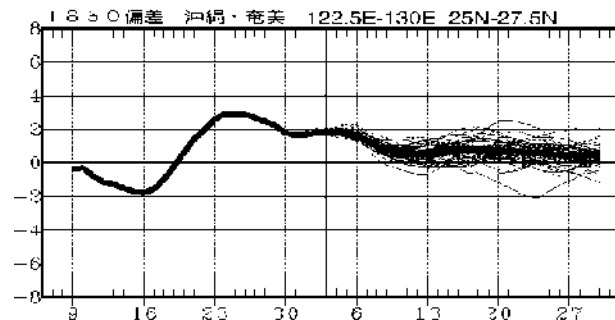
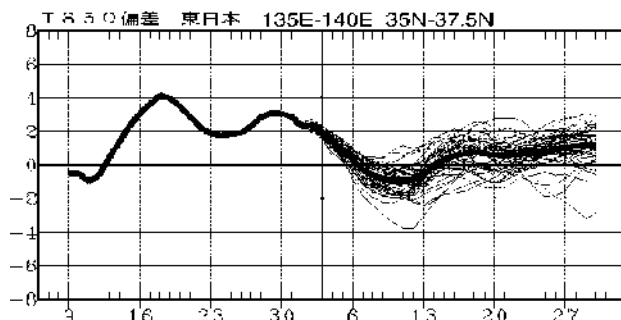
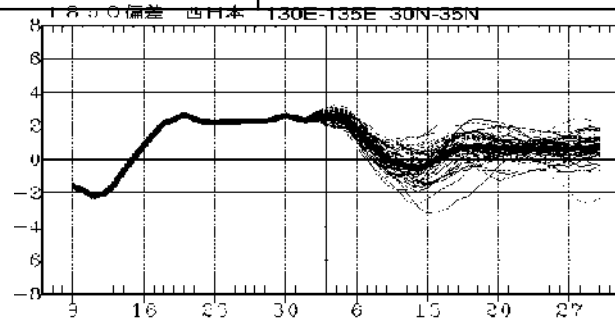
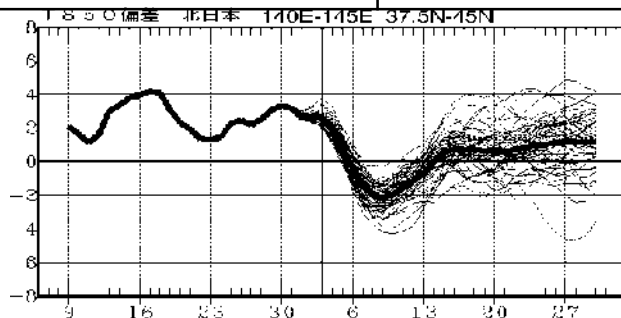
全般1か月予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は東・西日本と沖縄・奄美では高いでしょう。また、北日本では1週目は低く、2週目は高く、気温の変動が大きいでしょう。
- 低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は沖縄・奄美で多く、北・東・西日本太平洋側では平年並か多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、東・西日本太平洋側では、平年並か少ないでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(6/6~6/12)	2週目(6/13~6/19)	3~4週目(6/20~7/3)
想定される天候(気温)	北日本は低温。東日本は平年並だが西日本と沖縄・奄美は高温。	北日本と沖縄・奄美で高温。東・西日本で高温傾向。	北日本は、ほぼ平年並。東・西日本と沖縄・奄美は高温。
根拠	北日本は冷涼な空気に覆われやすい。西日本と沖縄・奄美は暖かく湿った空気が流れ込みやすい。(P12,P13参照)。	北日本と沖縄・奄美は暖かい空気に覆われやすい。東・西日本では高気圧縁辺の暖かい空気が流れ込みやすい(P12,P13参照)。	偏西風が北偏して流れるため、東・西日本と沖縄・奄美を中心に暖かい空気に覆われやすい。北日本では、ほぼ平年並だがオホーツク海高気圧の影響を受ける可能性がある(P12,P13参照)。

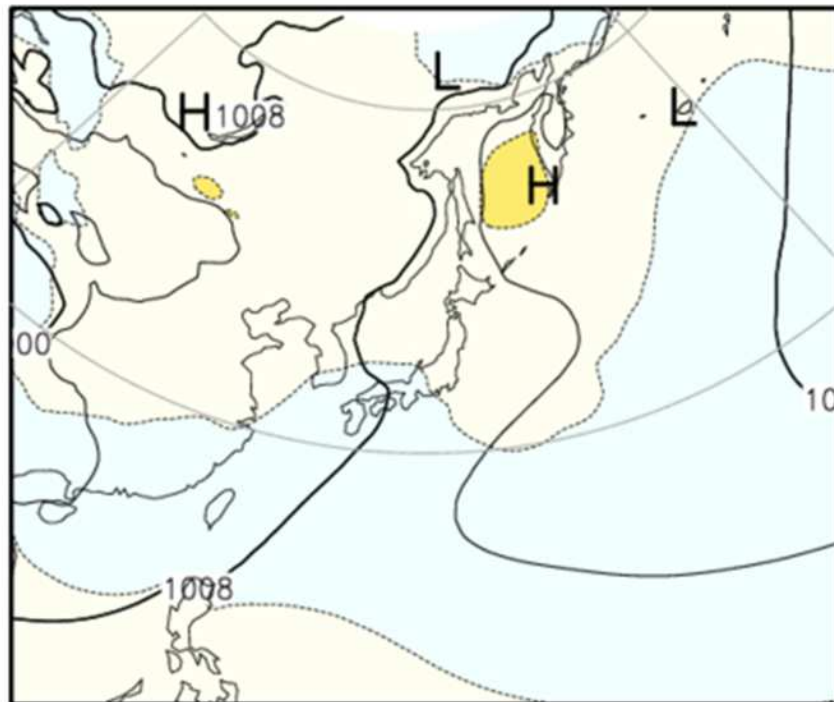
850hPa気温
偏差時系列



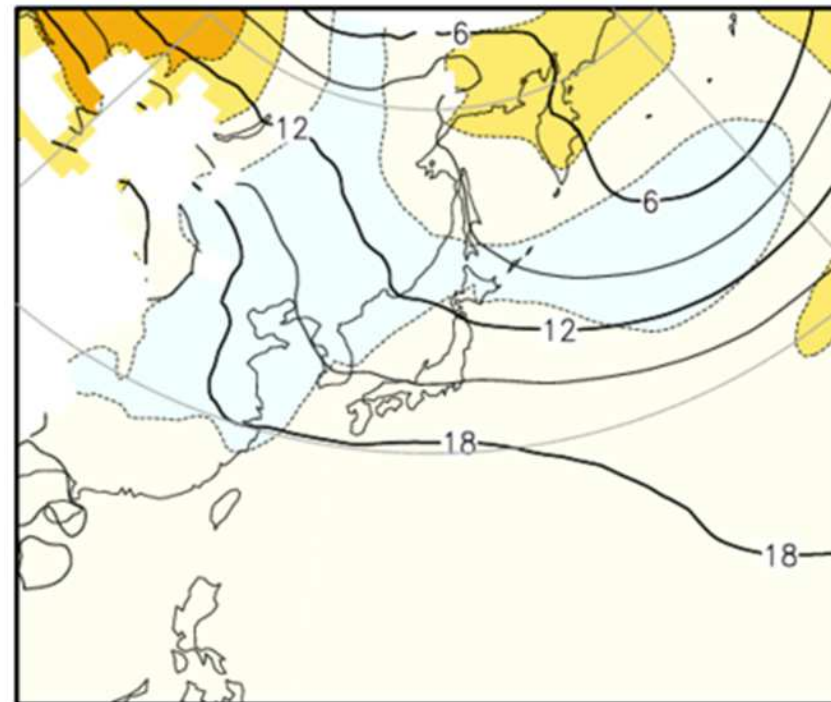
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(6/6～6/12)	2週目(6/13～6/19)	3～4週目(6/20～7/3)
想定される天候(天気)	<p>北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。</p> <p>東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p> <p>東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。</p>	<p>北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。</p> <p>東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p>	<p>北・東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p> <p>沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p>
根拠	<p>北日本では、低気圧や前線の影響を受けやすく多雨・寡照傾向。東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすく多雨・寡照傾向(P10-P13参照)。</p>	<p>全国的に平年と同様の天候だが、西日本を中心に高気圧縁辺の暖かく湿った空気が流れ込みやすいため、多雨傾向(P10-P13参照)。</p>	<p>全国的に平年と同様の天候(P10-P13参照)。</p>

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

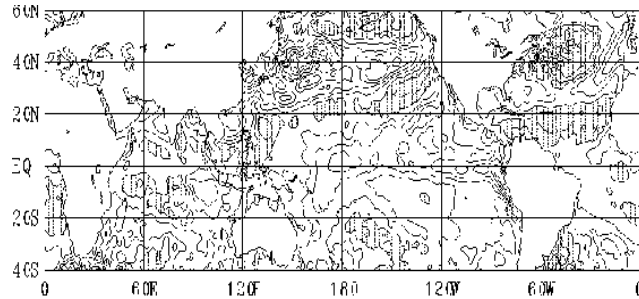


1か月平均の海面気圧(左図)では、オホーツク海付近で平年より気圧が高く、オホーツク海高気圧が予想されています。一方、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に平年より気圧が低く、前線や湿った空気の影響を受けやすいでしょう。

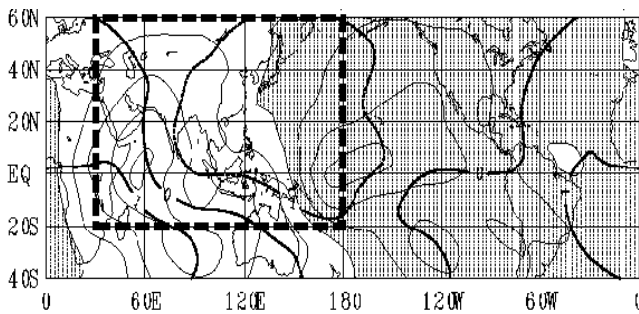
上空約1500mの気温(右図)は、北日本では平年より低く、冷涼な空気に覆われやすい時期があるでしょう。一方、東・西日本と沖縄・奄美では平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

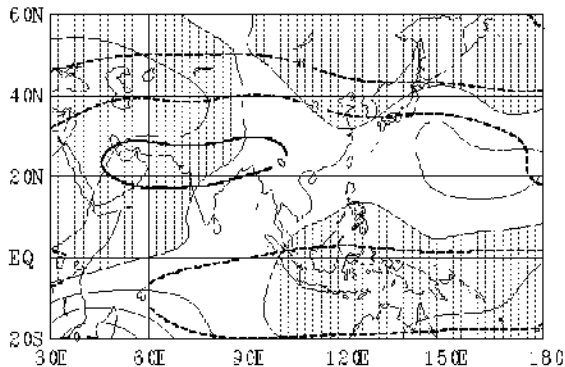
SST偏差



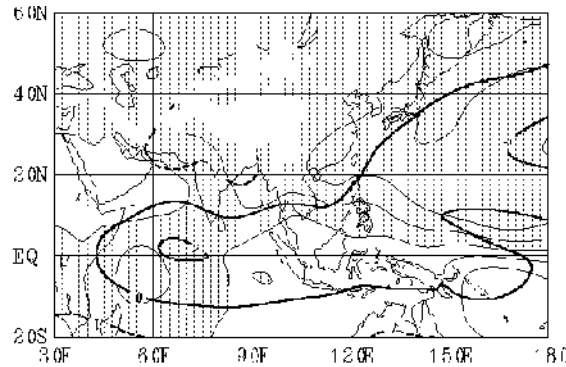
200hPa速度ポテンシャル



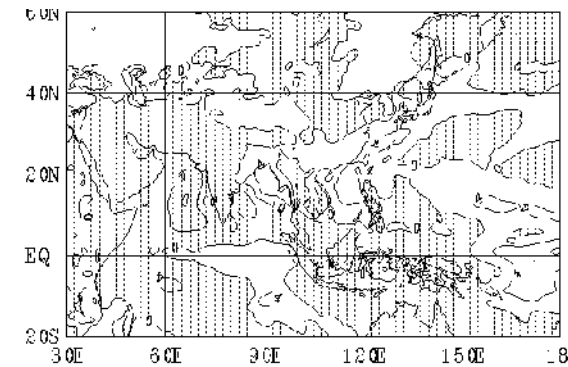
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量偏差



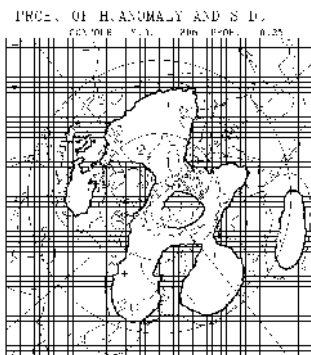
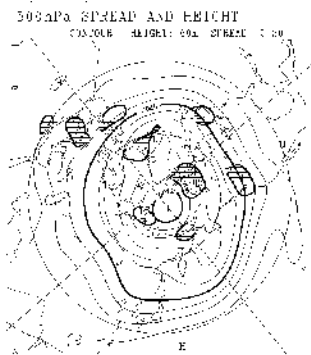
SST偏差は、太平洋熱帯域では中・東部を中心に広く正偏差。

200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差に対応して、太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差、インド洋西部を中心に上層収束偏差。

200hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、華南から日本の南東で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、南シナ海から日付変更線付近にかけて低気圧性循環偏差。

降水量は、ベンガル湾と南シナ海から日本付近にかけて多雨偏差。また、日付変更線からミクロネシア付近にかけて多雨偏差。

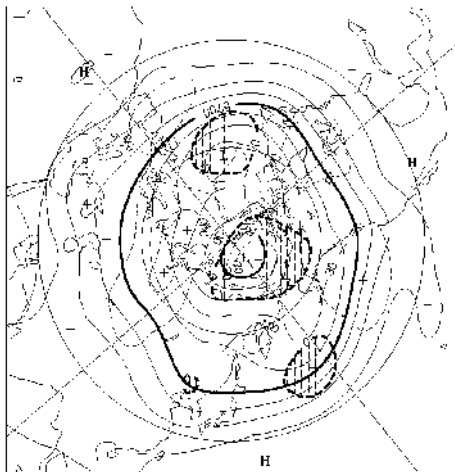


500hPa高度は、日本付近は広く正偏差。

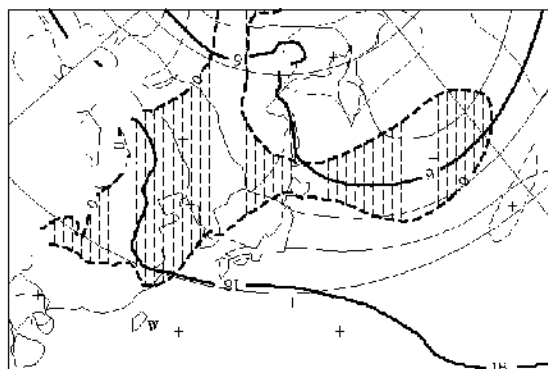
850hPa気温は、日本付近は北日本では負偏差だが、東・西日本と沖縄・奄美は正偏差。

海面気圧は、オホーツク海付近を中心に正偏差で、オホーツク海高気圧が予想されており、北日本では冷涼な空気に覆われやすい時期がある。一方、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に負偏差で、前線や湿った空気の影響を受けやすい。

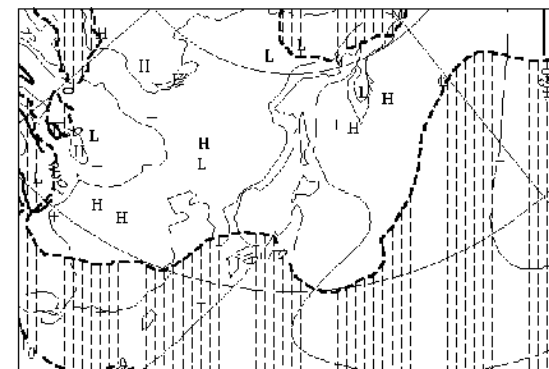
500hPa高度



850hPa気温

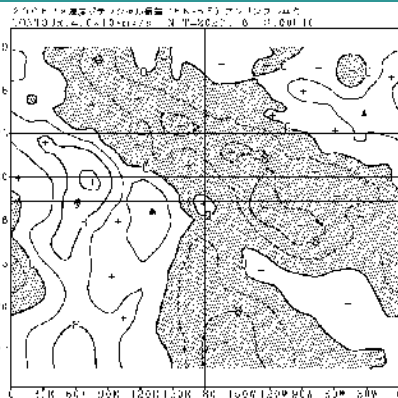


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



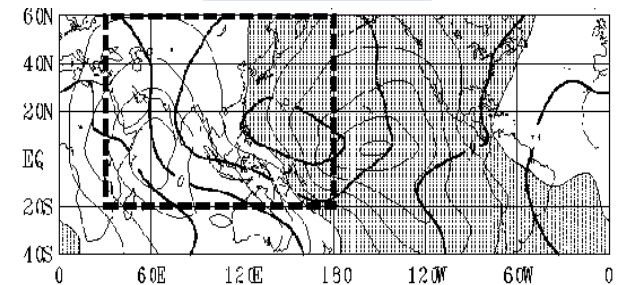
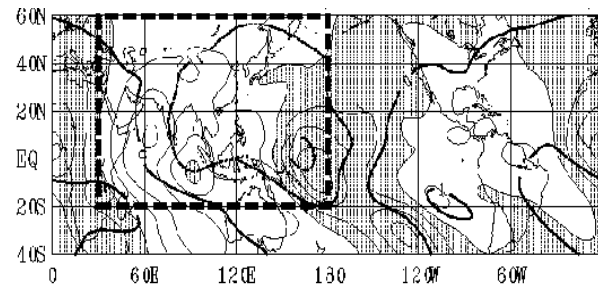
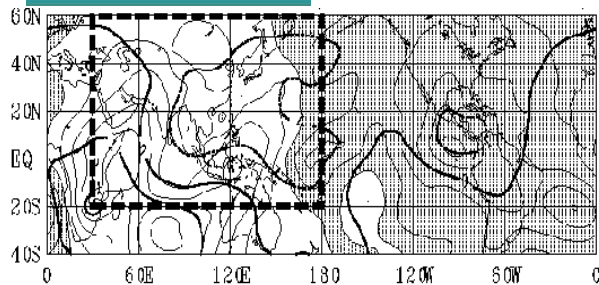
200hPa速度ポテンシャルは、期間を通して太平洋中部で上層発散偏差、インド洋西部を中心にインドネシア付近にかけて上層収束偏差。降水量は、1週目はベンガル湾と南シナ海から本州南岸付近にかけて及び北海道地方で多雨偏差。2週目は多雨偏差が北進し、華南から西日本付近にかけて多雨偏差。3~4週目はベンガル湾と南シナ海、日付変更線の西で多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

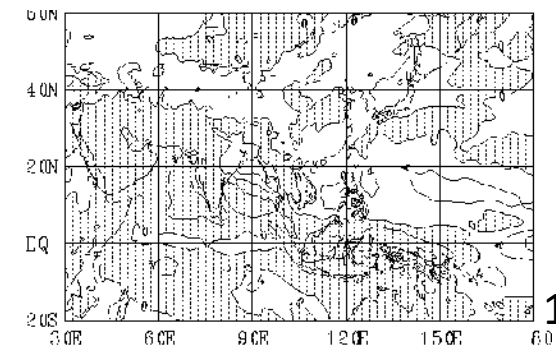
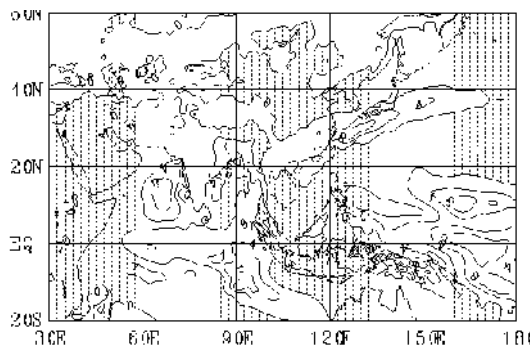
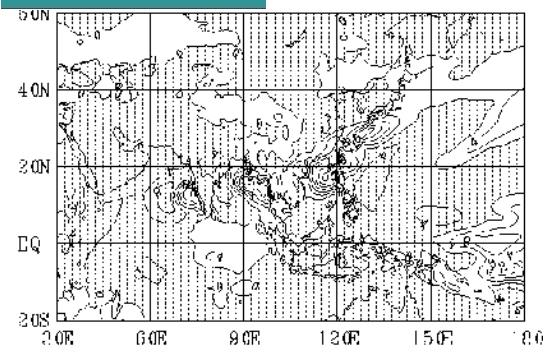
1週目

2週目

3~4週目



降水量偏差

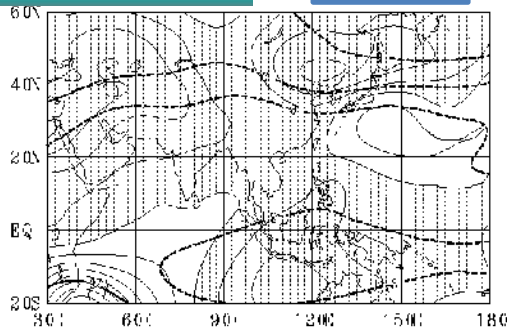


200hPa流線関数は、1週目は寒帯前線ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、中国東北
区付近で低気圧性循環偏差、日本の南東で高気圧性循環偏差。2週目は沿海州付近で
低気圧性循環偏差。3~4週目はフィリピンの東を中心に高気圧性循環偏差。

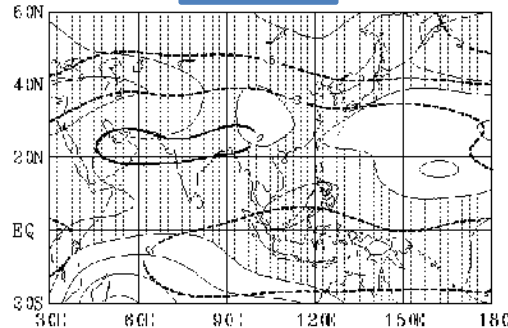
850hPa流線関数は、熱帯域の対流活動に対応して、1週目はベンガル湾と南シナ海で低
気圧性循環偏差。2週目はベンガル湾と日付変更線の西で低気圧性循環偏差。3~4週
目は日本の南で低気圧性循環偏差、日本の東で相対的な高気圧性循環偏差。

200hPa流線関数

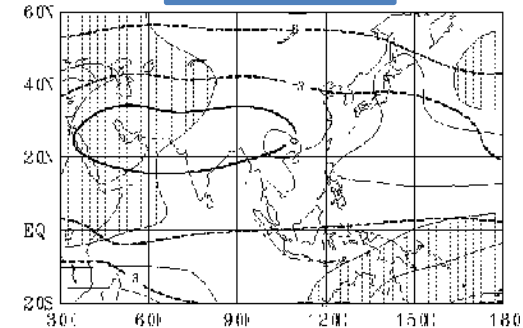
1週目



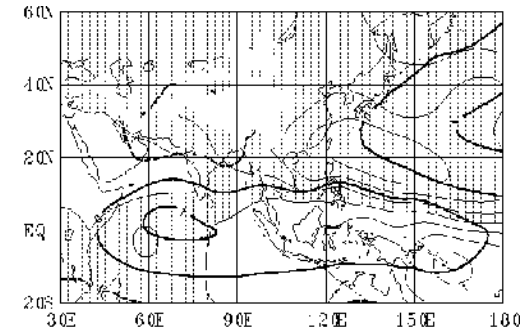
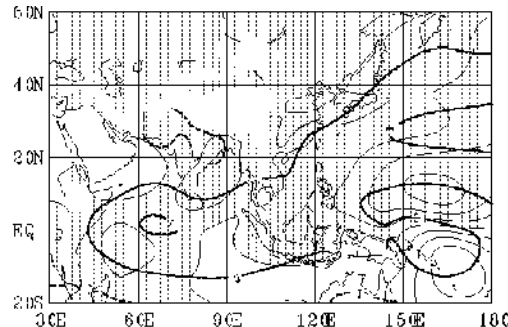
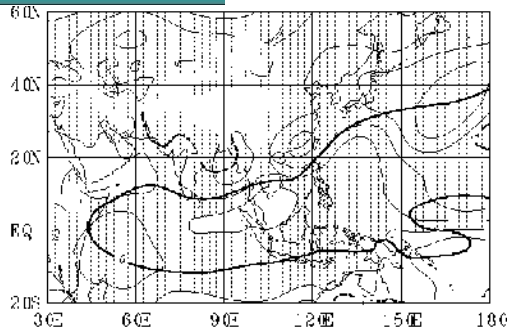
2週目



3~4週目



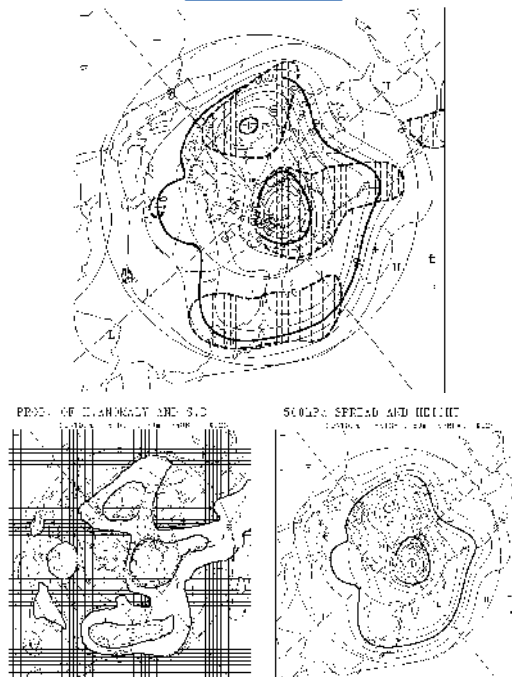
850hPa流線関数



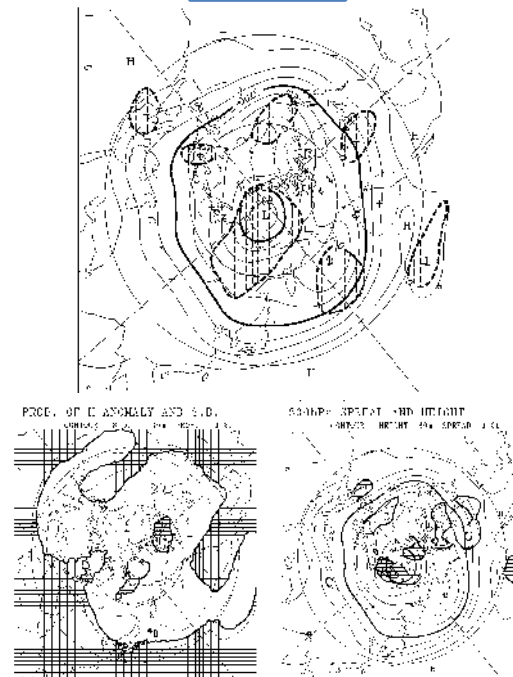
500hPa高度は、1週目は寒帯前線ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、中国東北区から日本付近にかけてトラフとなり、トラフに近い北日本を中心に負偏差。2週目は、日本の東を中心に正偏差。3～4週目は、日本付近では北・東・西日本を中心に正偏差、東シナ海付近で負偏差だが、東シベリアと南シナ海付近のスプレッドは大きく、不確実性がある。

500hPa高度

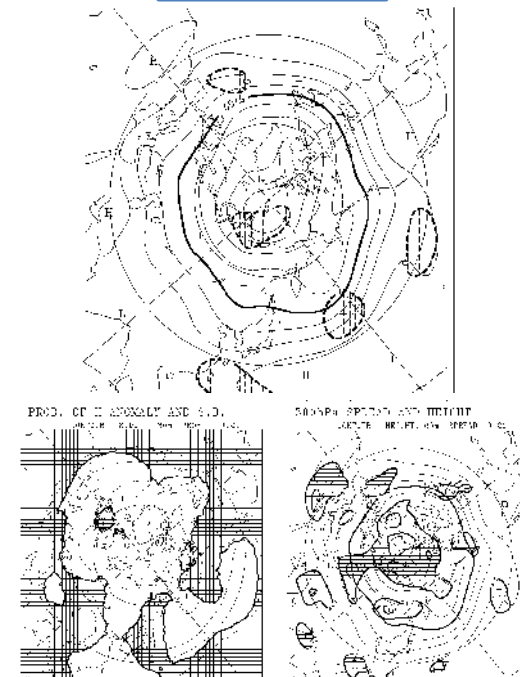
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、500hPa高度偏差に対応して、1週目の日本付近は北日本を中心に負偏差だが、沖縄・奄美は正偏差。2週目以降は、日本付近は広く正偏差。

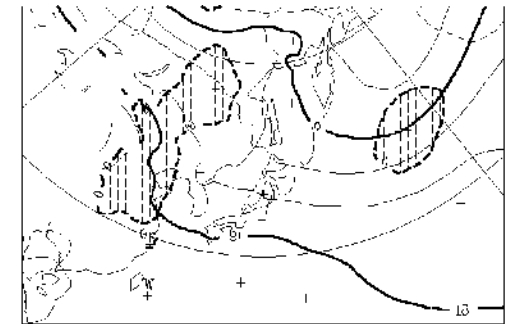
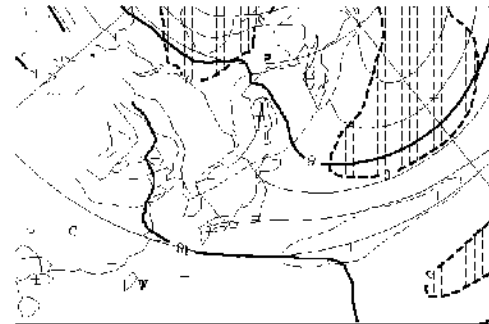
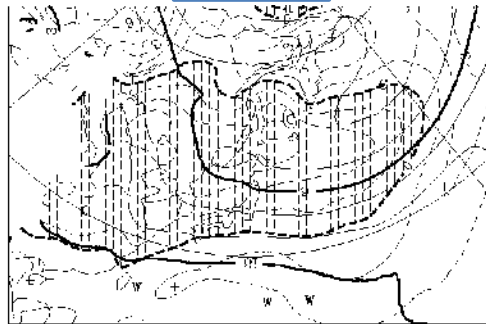
海面気圧は、1週目はオホーツク海付近に高気圧があり、北日本を中心に冷涼な空気に覆われやすい。また、北日本では低気圧や前線の影響を受けやすい。一方、沖縄・奄美から東・西日本太平洋側を中心に、オホーツク海付近の高気圧と太平洋高気圧の間の気圧の谷となり、前線や湿った空気の影響を受けやすい。2週目は日本の東の太平洋高気圧が沖縄の南に張り出し、西日本を中心に高気圧縁辺の暖かく湿った空気が流れ込みやすい。3~4週目は日本付近の偏差は小さいものの、オホーツク海高気圧が予想され、北日本太平洋側では、冷涼な空気の影響を受ける可能性がある。また、日本の南で負偏差が予想され、熱帯擾乱の影響を受ける可能性がある。

1週目

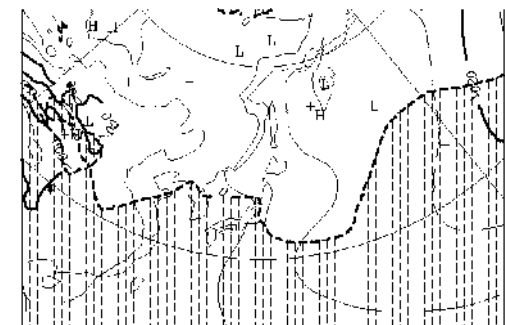
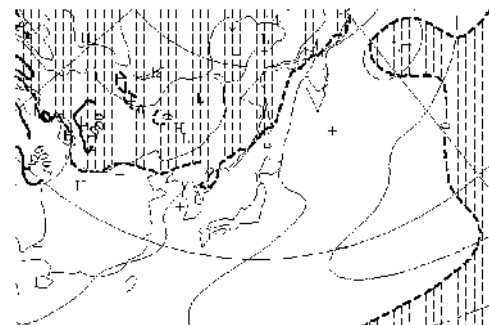
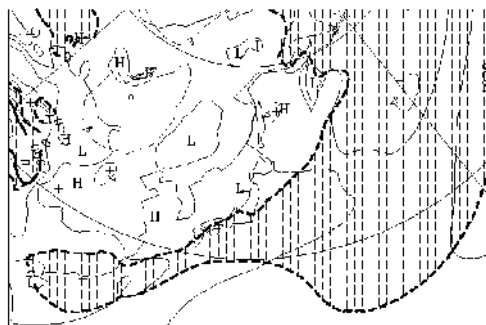
2週目

3~4週目

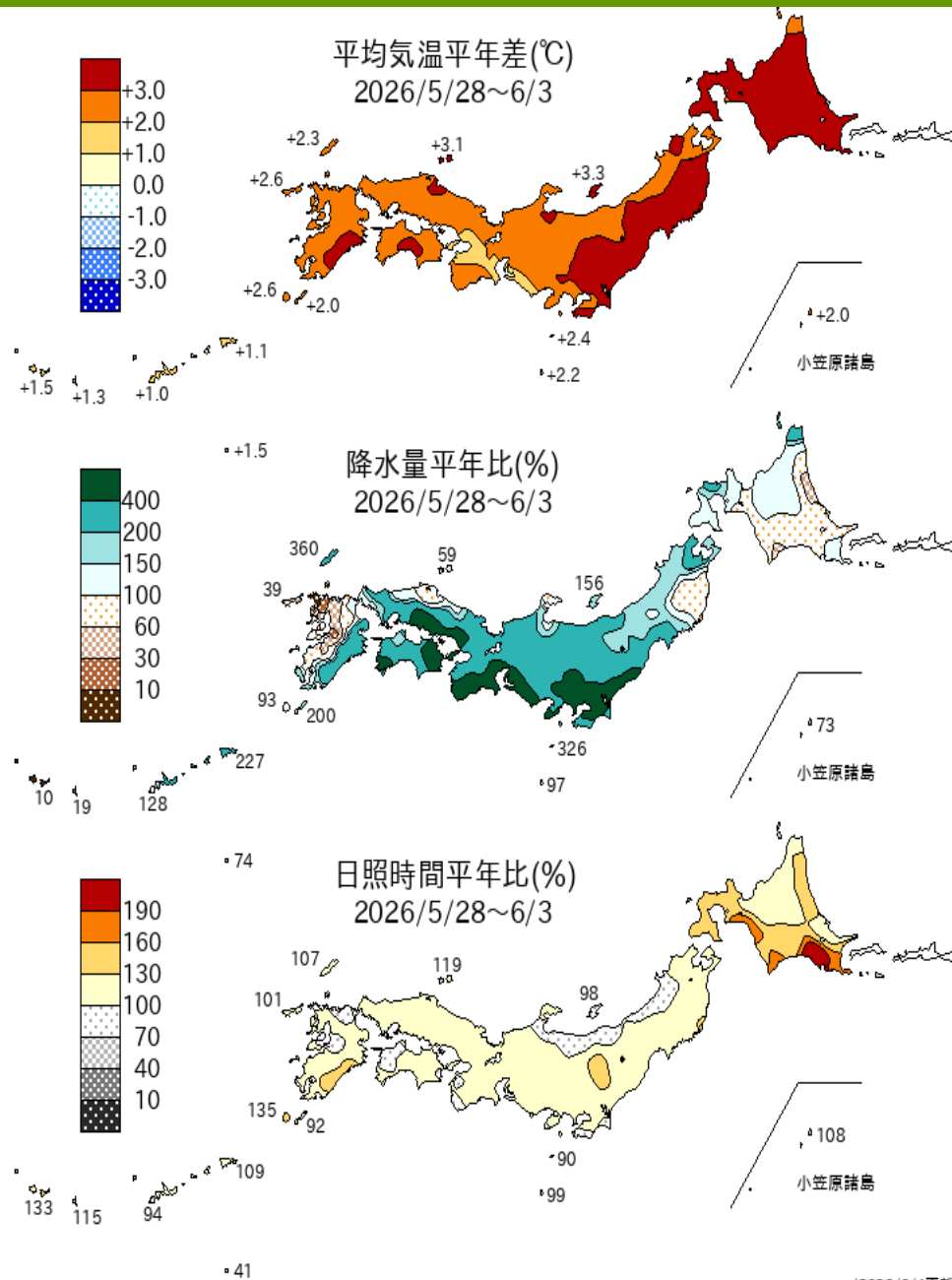
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(5月28日~6月3日)は、北日本では天気は数日の周期で変わりました。東・西日本と沖縄・奄美では、期間の中頃までは高気圧に覆われ、晴れた日が多くなりました。期間の終わりは前線や台風第6号の影響により沖縄本島地方から東日本太平洋側を中心に曇りや雨となり、特に台風が接近した3日は、徳島県、和歌山県、静岡県及び神奈川県で線状降水帯が発生するなど記録的な大雨となりました。降水量は、前線や台風第6号の影響を受けた東・西日本太平洋側を中心に平年を大きく上回りました。日照時間は全国的に平年を上回った所が多くなりました。気温は、暖かい空気に覆われやすく、北・東日本を中心に平年を大きく上回りました。